



おめでとう、高田小150才。

さあ、令和5年度もあとわずかだミン！今年度を振り返ると、「高田小150周年」をお祝いする行事がたくさんありましたミン。皆さんが高田小を大切にしたいとやりたいことを実現する力がひとつになって、形になったんだミン。11月からの記念行事をまとめてご紹介していくミンよ～！

新たなシンボル・記念樹&記念碑

体育館前のロータリーに記念碑を設置したミン！除幕式では6年生がオリーブの樹を植樹したミン。これからの高田小を見守るシンボル、みんなで大事にしていこうね！

オリーブの樹、楽しみますね！



心に残った記念式典とお祭り

お天気の心配もありましたが無事開催！午前中は体育館にて記念式典。お祝いの言葉、記念動画上映、児童たちの楽しい発表、学年行事の作品展示などで高田小の記念日をお祝いしたミン！午後からは奇跡の青空の下、運動場では記念マルシェ。体育館では無料体験コーナーと、たくさんの人たちが笑顔になった特別な1日だったミン！



発表はドキドキしていたけどみんな楽しんでました！

みんなで読もう！図書の新着

図書館には新しい図書が寄贈！コーナーを設置してくれたミン♪ 君の読みたい本はどれかな？

大好きなソノリがたくさん！



整備された温知の森

立派に育った温知の森の木。でも育ちすぎると危ない！と、業者さんに伐採していただくことに。すっきりとなった森は、より遊びやすい場所に。これからまた少しずつみんなと一緒に成長していくミン！



たくさん切ってもらいました！



打ち合わせでくたびれ気味のコーデミン

記念誌の発行

高田小の歴史と魅力をぎゅっとつめこんだ記念誌を作ったミン！寄稿してくださった皆様、資料の提供、協賛などなどたくさんに人々に応援してもらって出来た一冊だミン！

ここに書き記せなかった事もありますが、これらはすべて高田小を愛する皆様の協力があったからこそ出来たことばかりです。本当にありがとうございました！

ミンだのきんぎょさんさっしとらす！

高田小学校を作ってくれた人たち

高田小学校の前身である『温知学舎』は明治5年にできました。どんな人たちが作ったのでしょうか？「高田郷のあゆみ 九州南朝の都はここだ」（南朝九州の都研究会）という本には下のように記されています。

松岡廉平、郡豊永、松岡長康、井口里甫、小田某諸氏が藩に願い出て私学を設立した。高田を中心に植柳、敷川内、宮地、大田郷、高田郷より約300名が集った。

このようにたくさんの方が、学校設立に尽力されてできた学校だったので。明治政府が「小学校を設置しよう！」と決めるよりも前の出来事。「自分たちの力で高田校区の教育をしっかりと行って、盛り上げていこう」という志のある方々の強い思いが、学校という形になったことがわかりますね。

150年前から、この高田小の父たちの思いは今も受け継がれています。そしてこれからも、節目ごとに振り返って私たちが受け継いでいきましょう。

編集後記

広報誌のタイトル「さいこうだ！」という言葉には、7つの意味を持たせています。漢字で書くとこちらです。《再考》《再興》《採光》《採鉱》《彩虹》《最好》《最高》児童の皆さんには難しい言葉もありますが、「さいこう」の意味を調べて自分たちのことに当てはめてみてください。七色の虹のようにたくさんの希望を持つ言葉「さいこうだ！」。これからも高田小の合言葉になりますように！



温故知新 高田小学校、 おんこちしん ② 150年から200年へ

いい国は、いい町から。いい町は、いい人たちから。いい人たちは小中学校から育つ。
皆さんは、これから50年・100年・200年…と「良いまち・良い国・良い社会・良い世界」
にしていくために、私たちができる事や心がけをいくことはどんな事だと思いますか？
そのヒントとなることを教えてください。その人を紹介します。
「高田は、さいこうだ！」と言える小学校、まちになっていく助けになってくれることを願って。

安岡さんという人物

戦時中から戦後にかけて、東洋思想の大切な本質を当時日本の上層部から、国民の一人ひとりにまでわか
りやすく教え、敗戦した日本の復興と日本人の精神性を影で支えた方がいました。陽明学者の安岡正篤さん
です。朱子学・陽明学と言うと、孔子の論語からの流れで生まれてきた学問です。この記事では語りきれま
せんので、「どんな心がけをしたらいいのかな？」という視点でご紹介します。若い頃は西洋の学問もしっか
りと学ばれ、その後、東洋の学問の本質を改めて実感され、日本人らしさ、良さ、改善点、これからの国民
の心構えを命ある限り本に記したり、お話しされたそうです。昭和58年に亡くなられていますが、たくさん
の著書は現代を生きる私たちにも力を与えてくれます。

心に火を灯す燈人（ともしびと）にみんな、なれる

そんな安岡さんのお話で特に皆さんにお伝えしたい言葉があります。
「一燈照隣 万燈遍照」 「一燈照隣 万燈照國」

どんな意味かというところ…「一人の人間が一つ持っている灯火（ともしび）で、暗くなっているところ
を照らして行くと、その一人の灯火が万人（まんにん：たくさん）となった時、暗い場所はなくなるほどに、
もれなく明るく照らすことができるよ」「一人の一つの優しさや勇気で、暗くなっていたり悲しんでいる人、
困っている人に手を差し伸べていくと、その一人一人の思いやりが、百人、千人、万人、億人となった時、
国に住む人々は明るく希望を持って暮らすことができるようになるよ」…という意味です。
「困っている人の心に、一人一人が火を灯してあげる心を持つと、明るい笑顔が満開のクラスや学校、まちに
できるんだよ」と心がけてみましょう。『温故知新その1』でもお話しした、縦軸の助け合い、横軸の助け
合いにもこの心が生きてきます。「今だけ、自分だけ良ければそれでいい」という気持ちもあるかもしれま
せんが、本当に自分だけ満足していれば、それでずっと楽しい？ずっと幸せなのかな？と考えてみましょう。

周りの人も一緒に楽しく過ごせることが、長く楽しく本当の幸せを感じていける秘訣だと思って、動いてみ
る人が燈人（人の心に火を灯せるひと）の第一歩です。人に手を差し伸べると、逆に自分の心にも火を灯し
てもらえるんだという体験を積み重ねていきましょう。豊かな心、豊かな子どもを育てる環境（小学校、まち、
国）になっていくように、児童の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さん、一人一人の小さな力を合わせて
いけると素晴らしいですね。

幸せのおすそ分け、シャンパンタワー

とある心理学の先生の言葉です。「まず、自分の心のコップに水を入れて満たしましょう。自分の心のコップが空っぽのままだと、いくら周りの人に水を注いであげても、自分は満たされないし、周りの人にもあなたの本当の良さを分け与えていくことはできませんよ。」それは、自分を大切に
する、自分の心を大切にする、どうせ自分なんて…と思わず、励ましたり、慰めたり、褒めたり、頑張り
を認めてあげたり、好きなことを好きだと言えるように素直になることです。「今だけ、自分だけ良ければ
いい」という考えとごちゃごちゃになりそうですね。自分を大切に満ちた心のコップからあふれてくる
ものを、周りの人に優しくおすそ分けをする、それだけでいいんです。自分を大切に、周りの人に大
切にもらえる、その心がけと体験がちょっとずつでも日々積み重ねられていく環境を作ってあげることが
大人の役目になります。それをシャンパンタワーのように例えられていました。

大切な心の持ち方を、実践して伝えてくださった方々に刺激を受けて、次の段（世代）、その次の段（世代）
へと広がりが伝わり、時に重なり（家庭のタワー、クラスのタワー、学年のタワー）、時に隣り合い（異
なる文化のタワー、隣の小学校、地域、国、違う世界感・宗教観を持った人々）と相和していける日が、こ
の地球上にも必ずやって来ると信じています。

まとめ

温故知新の言葉にあやかり、高田小学校ではこれまで150年の長い間、注がれてきたシャンパンタワー。
みなさんも上の方から、どんどん伝わって流れてくるものをしっかりと受け止め、自分の心のコップを満ち
して、満タンにしましょう。そして次は下級生へ、弟へ妹へ、子へ孫へ、下へ下へ、周りへ周りへ
…と脈々と繋がっていくグラスタワー。新しく知恵を加え、仲間を加え、高田小学校というタワーを彩って
次の50年に向けて、この価値観を時代に合わせて「再考」・「彩光」して、それぞれのタワー、それぞれの
人生に「彩虹」をかけていきましょう！今、自分の班の人に、クラスの人に、クラブの人に、家族に何がで
きるかな？考えるだけでもいいと思います。言葉にして考えてみる。時に人と話してみる。行動までできな
くても、「思うこと」、「考えること」が全ての始まりです。

